

東野辺薫文学碑

～それぞれの文学碑を訪ねてみましょう～



とうのべかおる
東野辺薫

二本松出身

安積中学校、早稲田大学を卒業し、県内の旧制中学・新制高校の
教員生活を続ける中で、作家活動に励む。

1943年、少年時代を過ごした上川崎村（現・二本松）での体験
を基に描いた『和紙』が、第18回芥川賞を受賞した。

二本松市

1978年建立

「和紙」より

観音丘陵遊歩道



その頃、福島県在住の作家
としては初のことだった。

2022年建立

「和紙」より

上川崎の上川崎住民センター敷地



二槽目のネリを絞ってみると、母屋の方で何か言ふユミのこゑが聞えてきた。
はっとした氣持で簀框に手をかけたが、一枚々々漉いてゆくうちに、やがて
我れ知らずいつもの漉き三味の境に入ってしまった、ふと足音が漉屋の前
にとまった時も、友太の心は淵のやうに静かであった。 「和紙」より

冬のさ中に水と闘ふ、過酷な寒氣への苦行に近い忍縦がない限り、
所謂他村の人々には手の出ない仕事になるのではないだろうか。
上川崎の人々には冬の征服者としての血が長い傳統を承け継いで
流れてゐる、誇りを以て友太はさう考へてゐるのであった。

この他に文学碑がありましたら、ぜひ文学の森資料館に情報をお寄せください。